

事務事業名	乳幼児育児相談事業	事務事業No.	10202000344	所属課	健康推進課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
母子保健法第9条に基づき相談事業を実施してきた。R2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出自粛などが強いられる環境で、母親たちの精神面での不安が大きくなりやすい傾向がみられた。その為、この情勢に合った相談事業を見出す必要性からR3.2からオンライン相談を取り入れた。オンライン相談の実績がないことから、R6.11月末までの利用でオンライン相談を終了した。その代わりに子どもや家族の医療に関する相談ができる産婦人科・小児科オンライン相談をR6、8月から導入した。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
心配なことが相談でき、良かったとの声があった。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評価項目	
改革改善を行う	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 子育て支援や育児不安の軽減を図り、次世代を担う子どもが健やかに育つ体制づくりに結びついている。また、統合計画で掲げる「健康づくりの推進」にも結びつく事業である。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 子育ては常に児の発達成長により、保護者のかかえる悩みや不安が変化する。また保護者の心理面は育児にも反映しやすい為、乳幼児の育児相談は必要であるといえる。また赤ちゃん訪問で訪問できなかったケースにも面接できる機会になる。
	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 令和6年度の4～6か月育児相談受診率が99.15%と昨年に比べ増加している。受診勧奨を行っており、引き続き未受診者へ確認と受診勧奨を行っていく。
効率性	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 赤ちゃん訪問後、1歳児健診まで保護者との接点がない。また児の目まぐるしい成長に保護者の不安内容も変化しやすい。保護者の心理面は育児にも反映される為、育児不安の有無の確認、傾聴する場、そして虐待防止の観点からも廃止は出来ない。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる 子育て世代包括支援センター(令和7年度より子ども家庭センター)の機能を拡充することでより充実した相談事業になると思われる。
	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 子育ては児の発達成長により、保護者のかかえる悩みや不安が違ってくるので、育児相談は必要な事業である。
⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)	
<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 広報、ホームページ、母子モアプリ、個別通知により対象者に周知している。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	現在生後4～6ヶ月児を対象に育児相談を実施しているが、成長とともに変化していく育児不安に対応していくためにも高い受診率を保つ必要がある。随時相談できる機会があることを広く周知していくことや、育児相談未受診者へのフォローを行っていく。																					
(3) 今後の事業の方向性	(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下			×																		
令和5年度に比較し、4～6か月育児相談受診率が99.15%と昨年に比べ増加している。しかし、産後の保健師等からの指導やケアは十分であったかの質問(4～6か月育児相談問診票項目より)では「はい」と答えた者が91名、「どちらともいえない」と答えた者が20名、「いいえ」と答えた者が4名となっており、十分にケアを受けた者の割合は77%まで減少している。産後の保護者の育児不安の軽減が図られるよう、赤ちゃん訪問時の健診案内や、未受診者への受診勧奨を引き続き行っていく。また、産婦人科小児科医療機関の無い地域において産婦人科・小児科オンライン相談を提供していくことで、安心して子育てしていただける環境づくりを進めていく。	(6) 事務事業優先度評価結果																					
	成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ②																					

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>